

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 29日

栃木県知事  
福田 富一 様

提出者

住 所 栃木県小山市渋井779  
氏 名 ティーエス生コン(株)  
代表取締役社長 矢澤 秀樹  
電話番号 0285-24-4821

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ティーエス生コン(株) 小山工場
事業場の所在地	栃木県小山市渋井779
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	窯業・土石製品製造業 生コンクリート製造業 (2122)
②事業の規模	製造出荷額 67,150万円/年
③従業員数	14人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙2のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	排 出 量	7,062 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 購入者との密な連絡による過剰生産の抑制 ・ 洗浄水の削減 ・ 戻りコンクリートの有料化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	排 出 量	7,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ さらなる購入者との密な連絡の取り合い ・ 過剰戻りコンクリート有料化のさらなる定着化を図る ・ 品質管理の徹底		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 単一廃棄物により、分別保管なし		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	353 t	t
	(これまでに実施した取組) ・クラッシュファイヤーで骨材とスラッジ水に分離し、骨材は原材料、スラッジ水は練混ぜ水の一部として再利用		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	350 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・クラッシュファイヤーで骨材とスラッジ水に分離し、骨材は原材料、スラッジ水は練混ぜ水の一部として再利用		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

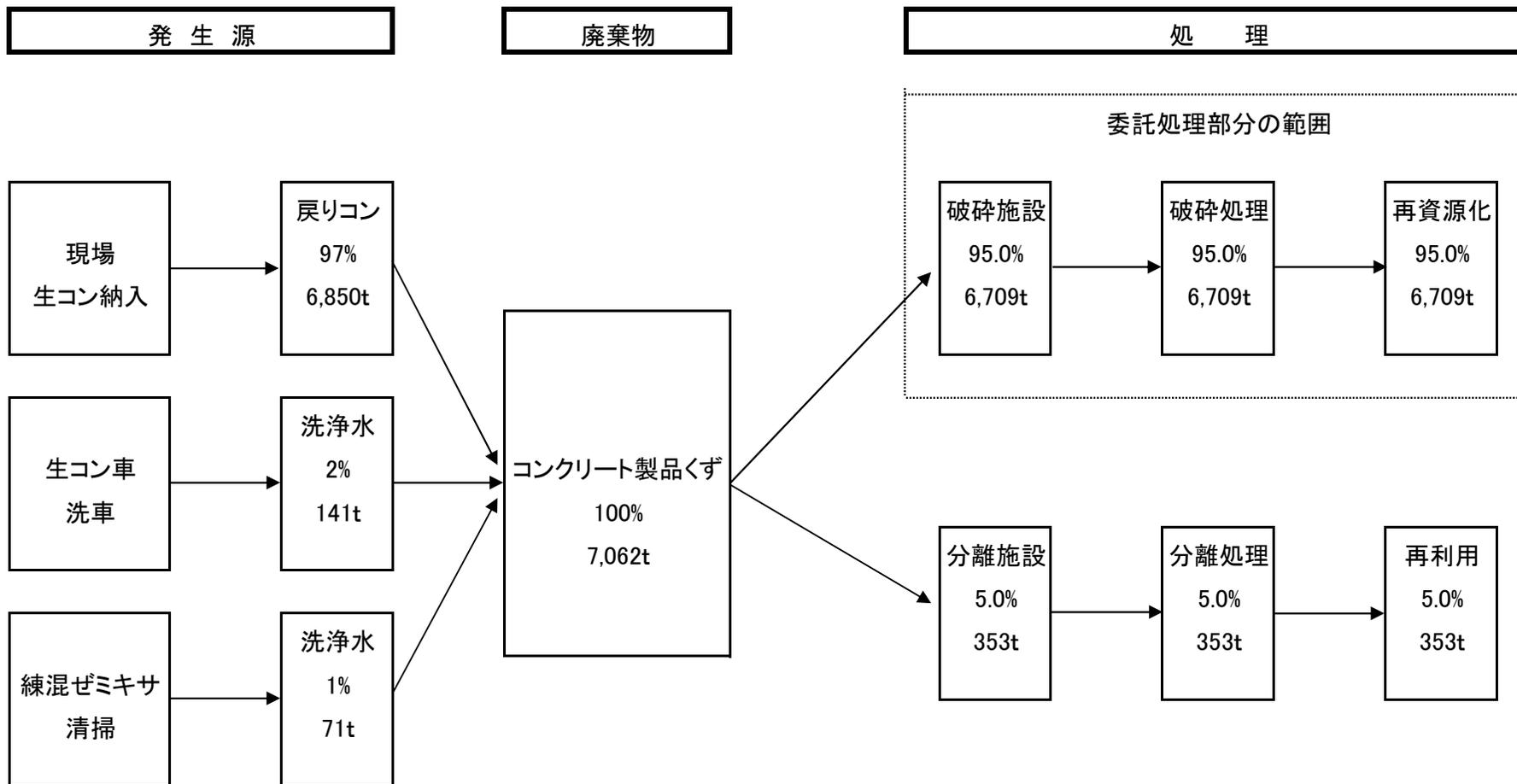
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	全処理委託量	6,709 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	- t	t
	再生利用業者への処理委託量	6,709 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	- t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 購入者との密な連絡による過剰生産の抑制</li> <li>・ 洗浄水の削減</li> <li>・ 戻りコンクリートの一部有料化</li> </ul>		

②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	コンクリート製品くず	
	全処理委託量	6,650 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	6,650 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現場との密な連絡の取り合いによる必要数量の把握 ・過剰戻りコンクリートの有料化の定着を図る ・品質管理の徹底		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

### 廃棄物処理フロー図(2022年度実績)



## 別紙2

### 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

#### 責任者及び管理組織図

統括責任者 小山工場長

- ・ 廃棄物処理方針の策定
- ・ 工場環境管理規定の策定、改廃
- ・ 処理業者の選定
- ・ 委託契約の締結
- ・ 監督官庁への各種報告

廃棄物担当 業務課

- ・ 廃棄物処理計画の作成
- ・ 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討
- ・ 産業廃棄物管理票の交付、管理
- ・ 社員に対する教育、啓発
- ・ その他関係する事項

工場委員会

- ・ 廃棄物勝利に関する各種事項の検討

廃棄物の発生抑制、適性処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。

#### 管理組織

